

2019（平成31）年度

大阪大学医学部医学科

学士編入学試験問題

【小 論 文】

問題冊子

（注 意）

- 1 問題冊子及び解答用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
- 2 受験番号は、解答冊子の表紙及び各解答用紙の受験番号欄に左詰めで、正確に記入すること。
- 3 問題冊子は、表紙を除き3枚ある。ただし、1枚目、3枚目は白紙である。
- 4 問題冊子又は解答冊子の落丁、印刷の不鮮明等がある場合は、解答前に申し出ること。
- 5 解答は、解答用紙の指定されたところに記入すること。枠からはみ出してはいけない。問題冊子に解答を書いても採点されません。
- 6 問題冊子の白紙は、適宜下書きに使用してよい。
- 7 問題冊子は、持ち帰ること。

以下の【資料】を読んで、下記の【設問】に答えなさい。

【資料】

なんとも衝撃的なニュースが年の瀬に飛び込んできた。同業他社では新年度から、

事業計画の大幅な見直しと組織（人）の刷新を行うことになるという。多くの従業員が、この異変の発生に驚いているのではない。同業他社の経営を安定させるようであり、同業の事業計画の刷新の風として、従業員も驚かされた。これから一歩ずつ進んでいくのだろう。という気持ちで迎えた。

入社して10年になる。組織刷新は驚かされた。新しい組織が誕生したのだ。この組織で仕事になるまでずっと働いてきた。新しい仕事をしてきた。ここで、今度もやっていけるかな。という気持ちで迎えるようになってきた。この一歩ずつだ。

同業他社で働くことは、いざという時の危機でも迎えるだろう。この事業計画の刷新は、驚かされた。新しい組織が誕生したのだ。新しい仕事をしてきた。ここで、今度もやっていけるかな。という気持ちで迎えるようになってきた。この一歩ずつだ。

いために、今年は、自分のこれからの生き方を考える一年にしたい。

（毎日新聞 2018.01.14. 抜粋）

人工知能（A I）を使ってがんや認知症などの治療データを大規模に解析し、患

者ごとに最適な治療法を提案するための高度な解析技術が、最近の研究で実現することが分かった。医療機関や製薬企業と連携して、がんや認知症などの治療に最適な治療法の提案、実現を目指す。

医療は高度な技術と、高度な医療技術と連携して、がんや認知症などの治療に最適な治療法の提案、実現を目指す。医療機関や製薬企業と連携して、がんや認知症などの治療に最適な治療法の提案、実現を目指す。

医療機関が連携して、がんや認知症などの治療に最適な治療法の提案、実現を目指す。医療機関や製薬企業と連携して、がんや認知症などの治療に最適な治療法の提案、実現を目指す。

を理研が新たに開発したA Iで解析し、一人一人の患者に最適な投薬や検査、介護法を見つけ出す。

（SankeiBiz 2017.1.3. 抜粋）

【設問】

1. 上記のように、人工知能（A I）の進歩は目覚ましく、医学分野だけでなく様々な局面で我々の日常に影響を及ぼす可能性が示されている。A Iと人の関わりについて、あなたの考えを述べなさい。（句読点を含めて800字以内）

2. A Iと医療に関して、そのメリット・デメリット、さらに問題点などについてあなたの考えを述べなさい。（句読点を含めて700字以内）